

令和6年度 学校評価対応表

	評価指標	学校経営の重点に関する成果(○)と課題(●)+K2:K13			学校関係者評価 意見・感想	改善計画 改善案	
		教員	児童	保護者			
(1)	全校朝の会により、みんなが仲良くなっている	100%	92%	96%	重点(1)自己肯定感の育成 ○取組1「全校朝の会」 ○時間を守る、ルールを守る、マナーや礼儀など高学年が見本となり、よりよい集団として高まっている。 ○「きずなぐんコーナー」で児童の自己肯定感が高まるだけでなく、発表しようとする意欲にもつながっている。 ○各学年の学習の成果を発表するよい機会となっている。発表の態度も、高学年がよいモデルを示してくれる。 ○自分の得意なことを披露することで、自己肯定感の向上につながり、自信をもって披露することができる児童が増えている。 ○友だちの頑張りを支える雰囲気ができている。 ○内容を担任等が事前に確認することで、同じ内容が重なることがなくて良かった。 ●児童アンケート自分にはよいところがある。」の割合が80%。得意技披露会や人権の木の取り組みが「自分のよさ」を感じることにつながっていない部分があるのではないか。 ●練習や準備に時間をかけないで披露してしまう児童がいたことが残念だった。 ○取組3「人間関係作りの充実」 ○全校や縦割り班での活動など、異学年交流が多く、互いを思いやる心が育まれる場になっている。 ○朝の歌「友だちになるために」で手話をつけて歌ったことがよかった。 ○人権週間に、人権同和教育主任を中心に各委員会の取り組みの工夫が自己理解や他者理解につながっている。		【自己肯定感の育成】 ○取組1「全校朝の会」 亀嵩小学校の一体感や自己理解・他者理解のために、朝の会での各メニューを継続してやっていく。 ○取組2「得意技披露会」 自己肯定感や他者理解のために得意技披露会を継続していく。練習や準備の様子を担任や担当が時々確認し、努力するよさを感じさせていくようにする。 ○取組3「人間関係作りの充実」 ・学期に1回程度の縦割り班遊びを企画する。 ・人権の木の活動は継続し、書かれたカードを個人に返し、自分のよさを確認できるようにする。
	自分や仲間を大切にする気持ちが育っている	100%	92%	86%			
	自分や仲間を大切にする支持的風土の集団になっている	100%	92%				
	自己肯定感や自立心が高まっている	100%	80%	93%			
	一人一人に適切な支援をしている	100%	96%				
(2)	学び方を身に付けている	100%	94%	81%	重点(2)学力育成 ○取組1「かめっ子スタンダード学習」 ○今年度の校内研究は、国語「話すこと・聞くこと」の話合いに絞って進めてきた。 ○特別支援学級を含み、全学級が研究授業に取り組み、研究推進と教職員の授業力向上に努めてきた。 ●「分かる・できる」「楽しい」授業づくりについては、児童、保護者ともに90%を越えなかった。 ○取組2「読書活動の推進」 ○図書館活用学習の一環として、図書館担当の教員が各学年に「図鑑・国語辞典・漢字辞典・百科事典・年鑑」の使い方を指導した。 ○学びのサポートや図書館担当が中心になり、様々な企画展や掲示、環境の整備に取り組んだ。 ●学年が上がるにつれ、読書や図書館から離れていく傾向がある。学習中もブックPC(タブレット端末)を活用するようになり、本で調べる以上にインターネットで調べることが増えている。 ●図書館運営の工夫が、図書館に行く子には届くが、行かない子は分からなくなることもある。 ○取組3「基礎基本の徹底」 ○チャレンジタイムの時間(月曜日・水曜日)、計算の日(毎月9日)、全校漢字テスト(毎月1回)、ステップアップ教室(金曜日:中高学年)など、漢字・計算等の基礎・基本の定着を図る取組を続けられた。 ●学習上、特別な支援を必要とする児童が増加してきており、個に応じた指導や配慮ある指導を心掛けているが、定着や徹底を全児童に求めることは難しくなってきている。		【学力育成】 ○取組1「かめっ子スタンダード学習」 来年度が亀嵩小学校としての最終年度になるが、これまで積み上げてきた複式学級の学習・かめっ子スタンダード学習の視点で学習していくことを大切にしたい。引き続き授業力向上に努める。 ○取組2「読書活動の推進」 インターネットで調べることがますます増えていくことが予想されるが、図書の使い方を学ぶことは大変意義深いものだと考えている。会場を図書館で行ったり、学習公開日に行ったりするなどの工夫をして、継続していきたい。 図書館運営の工夫を図書委員会と連携し伝えたり、担当者が伝えたりしていく。 ○取組3「基礎基本の徹底」 定着や徹底を目指すことよりも、「力が付いてきた」伸びてきたことを感じられるこを目標とする。伸びてきたことを目標とする方も多いのではないかと考えている。 ※児童の項目「力をつける」→「力を伸ばす」
	友達の発表を聞いて、自分の考えを深めて発表している	100%	88%				
	進んで話し合いを行い、思考力・判断力・表現力を高めている	100%	88%				
	進んで本を読んだり、本を活用して調べたりしている	100%	65%	63%			
	漢字・計算の基礎学習が定着している	89%	84%	93%			
(3)	生活リズムやメディア接触時間に気をつけて生活している	100%	76%	83%	重点(3)健康づくり・体力向上 ○取組1「よりよい生活習慣の形成」 ○学校保健委員会(協議)を年度初めと終わりに実施し学校医や保健師からの専門的な立場からの助言や、保護者の意見を聞くことができた。 ○生活チャレンジ週間に元気委員会や養護教諭による啓発を行い、遊びにより体を動かす機会を設けた。 ○中・高学年へ歯科保健指導を実施した。 ●メディアや睡眠に関する指導をできなかった。 ○取組2「かめっ子マラソン」 ○3年生以上の陸上練習やかめっ子エクササイズ、いこいマラソン、いこい縄跳びなど、継続的な活動に取り組んだ。かめっ子マラソンは、「かめっ子マラソンin高田」を含め年間5回取り組んだ。 ○6年生の運動における重点種目の目標と、他学年の重点種目に関連する目標を定め、ともに各学年の体育担当教員に周知した。 ●各学年の体育担当教員と体育主任との連携が取れなかった。 ○取組3「ふるまい目標」 ○あいさつや廊下の歩き方など、ふるまいに関する目標を各月で設定した。また、「きずなぐんコーナー」で、目標に対して児童が振り返る機会を設けた。ふるまいに関して気が付いた学年が全校朝の会を利用して自発的に全校に呼びかけていた。また、児童会と連携し、委員会に関連するふるまい目標を設定した。体育館では「異学年の遊び」を呼びかけ、体育館での異学年遊びが増えた。 ○スマイル委員会は亀嵩小の人権に関する課題について話し合い、人権劇として全校に呼びかけた。		【健康づくり・体力の向上】 ○取組1「よりよい生活習慣の形成」 生活チャレンジ週間に、やはりメディアの使い方に課題が見られた。他機関と連携し保護者も交えメディア安全教室等を実施したい。 ○取組2「かめっ子マラソン」 体力向上に関わる取組を継続する。運動における重点目標を年度途中にも体育担当教員に呼びかけたい。また、鉄棒の逆上がり補助器を設置するなど、児童が様々な運動に親しめる環境づくりをしていく。 ○取組3「ふるまい目標」 「かめっ子ふるまい名人」を継続して取り組む。目標の設定は、ふるまいに関する内容になっているか、児童が達成して意欲的に取り組めるものか精選する。 体育館遊びをする児童が非常に多いため、道具の取り扱いやルールを守ることを呼びかけ、誰もが気持ちよく過ごせる休み時間を目指したい。
	運動好きな子が育っている	91%	86%	79%			
	ふるまいがよくなっている	100%	92%	82%			
基盤	人権意識を高めている	100%			○生徒指導員会で定期的に児童の様子を共有することで、全職員での指導に生かすことができた。 ○人権教育の校内研修では、人権課題について日頃感じていることを話す人権トークを行った。多様な考えを共有することができ、教職員の人権感覚を高めることができた。 ○PTA研修会では、スクールカウンセラーに「子供との関わりで大切にしたいこと」という演題で講演をしていただいた。教師も保護者も子供との関わりを振り返る良い機会になった。	・各種たよりの配信を行うことはできないか。紙媒体のおたよりより、最近はスマホなどで見ることが多いのではないか。どこでも隙間の時間に、見ることができる。 ・教職員と保護者とのつながり、コミュニケーションをもっと増やすといい。 来年度が亀嵩小学校としての最終年度になるが、亀嵩を誇りに思う気持ちをもって新統合小学校で活動できるように、引き続きふるさと教育を推進していく。 来年度も、適切な時期に、積極的に情報発信を図っていく。閉校に向けた活動についても積極的に発信していく。	
	郷土を愛する心が育っている	100%	94%	82%	○地域の教育資源(ひともの・こと)と教科等の関連を図り、様々な教育活動に活用することができた。 ○職員間で地域教材について情報交換を行ったり、一覧表を活用・更新したりして、ふるさと教育を推進することができた。		
	積極的に情報発信されている	100%		81%	○学年便り、保健だより等については、各担当から適宜情報発信をすることができた。 ○学校だより、BLOG等で学校の取組を伝える情報発信ができた。		